

2006年4月1日発行(毎月1日発行) 通巻35号

Monthly

月刊ボブ
ヘアデザイン研究雑誌

パーマ入門 下巻

Hot & Cold perm, now we recommended!

今お勧めの「ホットパーマ&コールドパーマ」

B

B



アンティークのスーツケースには
さまざまな雑誌や本を入れてある



セト園もマーケットで集めたアンティークの1点物



手作りの雰囲気であふれた店内



エッシュクのオーナー、フェルナンドとメグ



手書きの料金表



サロンはクワン・フェルという建築家やデザイナーが集まるエリアに



サロンの料金表



レセプションは居心地の良い書斎のよう

ちょっと気になる海外サロン。そっちの事情はどんなの？

what's up LONDON

「覚えていて、私が働いていたサロンで会った時のこと。今は自分でサロンをオープンしたのよ」
 そう声をかけてもらい、巣立ってゆくスタイリストたちと再会するのうれしいが、彼らがつくり出す新しいサロンを再び訪ねることが、楽しみでもある。

香港育ちのメグと、スペイン出身のフェルナンドは、数年前にイースト・ロンドンのサロンで出会った。店を任されているスタイリストと話しこんでいたために、他のスタッフたちと会話をする時間はあまりなかったが、地味で隠れがちに接客をしていたというシャイな二人だった。

クラウンウエルというエリアは建築家や出版社、アートギャラリーやデザイナーのスタジオが集まるクリエイティブなエリア。カフェやレストランの登場と時を同じに、ここ数年ヘアサロンも進出を始め、休日でもスタイリストやシユな人々を見かけるようになった。

そこにエシユクが誕生したのは2005年10月のこと。メグが3年、フェルナンドは5年という、長いとは言えないロンドンでの滞在期間でサロンのオープンを決断したようだ。

「私もフェルナンドもそれぞれの国で10年以上の経験があることを考えれば、早い決断ではないわね。それまではボスになるのが嫌だったの」



ついつい、奥居してしまふ居心地のよい空間

スペインと香港。ふたりの出身地の頭文字に由来するサロンESHK

ESHK

文・写真 永田智子 (ヴィザビ・プロダクション)
set & photo: TOMOKO NAKAKURA (Via-a-Via Production)

ロンドンのサロンを訪ね続けていると、過去に取材をさせていただいたサロンのスタッフが新しく店舗をオープンし、一国の主となって旅立って行くことがある。

「覚えていて、私が働いていたサロンで会った時のこと。今は自分でサロンをオープンしたのよ」
 そう声をかけてもらい、巣立ってゆくスタイリストたちと再会するのうれしいが、彼らがつくり出す新しいサロンを再び訪ねることが、楽しみでもある。

香港育ちのメグと、スペイン出身のフェルナンドは、数年前にイースト・ロンドンのサロンで出会った。店を任されているスタイリストと話しこんでいたために、他のスタッフたちと会話をする時間はあまりなかったが、地味で隠れがちに接客をしていたというシャイな二人だった。

クラウンウエルというエリアは建築家や出版社、アートギャラリーやデザイナーのスタジオが集まるクリエイティブなエリア。カフェやレストランの登場と時を同じに、ここ数年ヘアサロンも進出を始め、休日でもスタイリストやシユな人々を見かけるようになった。

そこにエシユクが誕生したのは2005年10月のこと。メグが3年、フェルナンドは5年という、長いとは言えないロンドンでの滞在期間でサロンのオープンを決断したようだ。

「私もフェルナンドもそれぞれの国で10年以上の経験があることを考えれば、早い決断ではないわね。それまではボスになるのが嫌だったの」

れ方、そしてヨーロッパ人の髪の扱いやすさ。たくさんのことがアジアの国と比べてやりやすいと思う。ここには自由があるし、スタイルを完成させるのがクライアントとの共同作業だと感じる。だけ言葉には苦労したのよ」
 クライアントと接するための言葉に、完璧を要求されることは少ない。特にさまざまな人種が混在するロンドンでは、いろいろなアクセントも飛び交う。お客が気に入って通い続けてくれれば、言葉など通じなくてもいいのかもしれない。彼女が言う「言葉」とは、たくさんの法的な書類の山のこと。何をやるにもたたくさんの書類が必要なの

でビジネスをオープンするには、書類上での完璧さは逃れられないハードルなのだ。
 最初に見つけた店舗は他の借り手にと取られてしまった。その後見つけたこの場所は、天井の高さが気に入って、どうしても手に入れたかったが予算オーバー。不動産屋と何度も交渉を繰り返した末にやっとオープンのもどろがた。同じ形のミラーが機械的に並ぶような過剰なスペースにはしなくなかった。壁の市やアンティークシヨップを探し回って家具を集めたというだけあり、このサロンの中に同じものは何ひとつない。それぞれが調和しながら、不思議と情れ親しんだ場所のような懐かしさが漂っている。

「ヘアカットをしただけでなく、近くの保育園や学校の先生、親たちも来てくれるようになった。誰もが店の前で数秒立ち止まってここがサロンだとわかると立ち寄ってくれる。宣伝をしなくても3つの椅子は埋めることができている。いつでも人を迎えたいから、エシユクには定休日がない。

スペイン (エスパニーヤ) と香港の頭文字を取ってE(エ)S(エシユク)I(イ)N(イン)D(ロンドン)という意味なのだ。メグとフェルナンドという2人のスタイリストも、ロンドンで人々に愛される1つのサロンをつくりあげていくのだろう。

